

環境影響評価集計表 環境影響に関する研究一覧

(対象年度:2020年度 調査実施年度:2021年度)

部局	No.	著書名、論文名、発表演題等	担当者	研究の概要
人文学部	1	(著書)茅野恒秀・湯浅陽一編著『環境問題の社会学:環境制御システムの理論と応用』(2020年8月、東信堂、全330頁)	茅野恒秀	社会学における環境制御システム論の理論的体系化を行うとともに、カネミ油症や水俣病、河川行政、米軍基地内の環境規制、騒音問題、再生可能エネルギーといった個別具体の事例への援用を試みた。
	2	(論文)茅野恒秀「放射性廃棄物問題の全容と課題:国民的議論の出发点の再定位に向けて」(『環境と公害』50(3):57-62頁、2021年1月)	茅野恒秀	日本における放射性廃棄物問題の全容と課題を、原発の通常運転に由来する廃棄物と、福島第一原発事故由来の廃棄物の両面から論じた。
	3	(論文)茅野恒秀「〈核〉を失った原子力のゆくえ」(『現代思想』49(3):96-106頁、2021年3月)	茅野恒秀	東日本大震災10年の特集において、原子力発電の現状と今後の課題を、フロントエンド・バックエンドの両面から論じた。
経法学部	1	『アメリカの再生可能エネルギー法制の構造—日本への示唆—』(成文堂、2021年2月)	小林 寛	アメリカの再生可能エネルギー法制について連邦法と州法に分けて検討(総論・各論)を行い、日本の法制度への示唆を見出すことを試みた。
	2	「モーリシャス沖貨物船座礁油濁事故と法的責任」法学教室483号65-70頁(2020年12月)	小林 寛	2020年に発生したモーリシャス沖貨物船座礁油濁事故(海洋汚染)についてバンカー条約など国際条約に基づく法的責任の所在と今後の課題を論じた。
理学部	1	Temporal and spatial variations in methane emissions from the littoral zone of a shallow mid-latitude lake with steady methane bubble emission areas	岩田拓記	諏訪湖からの温室効果ガスであるメタンの放出の時空間変化について報告している。
	2	Environmental controls of diffusive and ebullitive methane emissions at a sub-daily time scale in the littoral zone of a mid-latitude shallow lake	岩田拓記	諏訪湖からの温室効果ガスであるメタンの放出プロセスの詳細について報告している。
全学教育機構	1	書評:佐藤仁『反転する環境国家 —「持続可能性」の罫をこえて—』(名古屋大学出版会) アジア経済研究所 学術情報センター編『アジア経済』,61(3):pp.97-100 2020(Sep.)	金沢謙太郎	持続可能とは何を、いつまで持続することなのか、について幅広い学問的視野とアジアの人々の暮らし向きから深く探究した書物を書評した。
	2	書評論文:「森林管理と社会的公正の追求」—梶本歩美著『森を守るのは誰か —フィリピンの参加型森林政策と地域社会』を読む— 環境社会学会編『環境社会学研究』,(26):pp.158-162 2020(Dec.)	金沢謙太郎	フィリピンの一農山村を舞台に、参加型の森林政策は住民同士の関係にどのような影響を与えているのか、またそれぞれの住民は森林政策や地域の利害関係とどう向き合っているかを中心に書かれた書物を書評した。
医学部	1	子どもの健康と環境に関する全国調査(環境省 エコチル調査)	野見山哲生他	環境中にある化学物質が子どもの健康に影響を与えていないかを検証する疫学調査を長野県上伊那地域で実施している。
	2	PM2.5 健康影響調査	野見山哲生他	環境中にあるPM2.5が健康に影響を与えていないかを検証する疫学調査を実施している。